

# 繁殖経営の収益性 繁殖障害

2011.8.18-19 市場研修会 おおいた肉用牛振興協議会

$$\text{所得} = \text{出荷頭数} \times \text{平均販売金額} - \text{経費}$$

出荷頭数	繁殖成績 分娩間隔	<ul style="list-style-type: none"><li>・目標は1年1産(基本は観察)</li><li>・繁殖経営の要となる部分、規模が大きいほど重要</li><li>・分娩間隔の遅延は約1,000円/日の損失</li><li>・不受胎の続く母牛は更新の対象(コストを生むだけ)</li></ul>
	事故率	<ul style="list-style-type: none"><li>・事故(死亡)は母牛から丸1年所得がないのと同じ事</li><li>・衛生管理の徹底で改善は可能</li><li>・基本は予防(病気になると増体も落ち、損失が大きい)</li></ul>

## 分娩間隔短縮効果

雌牛飼養頭数	20
分娩間隔	419
子牛価格	380,000
事故率	5%
雌牛経費	200,000

### ・子牛販売収入

$20\text{頭} \times 365\text{日} \div 419\text{日} \times 95\% = 16.5\text{頭} \times 380,000\text{円} = 6,270,000\text{円}$

### ・子牛販売収入(分娩間隔を30日短縮した場合)

$20\text{頭} \times 365\text{日} \div 389\text{日} \times 95\% = 17.8\text{頭} \times 380,000\text{円} = 6,746,000\text{円}$

差額 494,000円

### ・生産費の縮減(無駄飯食いを無くす)

$20\text{頭} \times 30\text{日} \div 365\text{日} \times 200,000\text{円} = 329,000\text{円}$

合計 823,000円

## 牛に種が付かない原因

- ・発情の見逃し
- ・適期授精ができていない。
- ・繁殖障害

## 見逃しを防ぐ方法

- ・記録及び個体管理を徹底  
発情予定牛を把握する。
- ・観察の徹底(観察回数を増やす)  
朝、昼、就寝前(特に夜が重要)

## 繁殖障害

理由	主な原因	対策
<b>【発情がこない】</b>		
発情微弱	哺乳刺激、離乳遅延	早期離乳、別飼いの実践 運動、削蹄、日光浴の実施
黄体遺残	過肥、飼料不足、脂肪肝 飼料の急な変更、飼料のカビ	治療：PGの注射（獣医師依頼） 適正な飼料給与、吸着剤、強肝剤等の活用
卵巢静止	やせすぎ	飼養管理の見直し（DM） 分娩末期の増し飼い
卵胞嚢腫	ビタミンA不足 太多すぎ	治療：ホルモン剤の注射（獣医師依頼） ビタミン剤の投与 飼養管理の見直し（カロリー）
<b>【受胎しない】</b>		
排卵遅延	ビタミンA不足 硝酸塩濃度過剰	ビタミン剤の投与 飼料作物管理の見直し
着床障害	子宮内膜症 タンパク質含量過多	治療：抗生物質の投与（獣医師依頼） 飼料バランスの見直し
黄体形成不全	体が酸化 乾物量の不足、ストレス ビタミンE不足	乾物量の見直し、ストレス軽減 ビタミン剤の投与
早期胚死滅	カロリー過多	飼料の見直し

## ビタミンの投与時期

分娩予定日の20～30日前には分娩後40日目ごろに発情を引き起こす原始卵が発生します。その原始卵の成長させるためにはビタミンAが必要です。分娩後初回発情が強く、これを逃すと泌乳が始まってから発生した原始卵の発情となるので、ホルモン分泌が崩れ、発情徴候を発見しにくいのはこのためです。分娩予定日の20～30日前にビタミン剤を投与しましょう。2回可能な人は分娩後にもう一度投与しましょう。

※ご不明な点は、最寄りの振興局にお尋ね下さい。